令和８年度　**６学年　授　業　改　善　推　進　プ　ラ　ン**　小平市立小平第一小学校

	課題：児童の実態・学習状況、指導の実態	改善プラン：課題改善の方針・具体的手立て
国語	○自分の意見や考えを小集団で表現することはできるが、全体の場面で表現できる児童が少ない。 ○文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力や、文章を図表などと結び付けて必要な情報を見付ける力を高める必要がある。	☆継続的に話し合い活動を取り入れ、対話の機会を増やす。 ☆考えたくなる動機付けを大切にした指導の充実を図る。 ☆叙述を根拠に考えを説明し、自分の考えが変わった理由まで振り返る活動を設定する。
社会	○多くの児童が歴史的事象に興味・関心をもって学習しているが、知識の定着に個人差が見られる。 ○調べる学習活動は、教科書や資料集、一人一台端末を活用しながら意欲的に取り組むことができる。 ○資料を読み取る力・読み取ったことをもとに自分の言葉で表現する力、多面的に思考できる力を高める必要がある。	☆自ら問いをもてるよう導入や資料の提示の仕方を工夫し、興味・関心を高める。問題解決的な学習展開を取り入れ、すすんで学習に取り組めるようにしていく。 ☆年表や人物画像を活用して一人一台端末やノートにまとめる表現方法を選択させる。 ☆複数の資料を比較し、事実と自分の考えを区別してまとめられるよう指導する。
算数	○小数、分数の乗法・除法の計算をさらに高める必要がある。 ○文章題で、問題文を正確に読み取り、数量の関係を整理して立式する力をさらに高める必要がある。	☆基礎的な計算技能の定着を図るため、授業の導入や家庭学習で継続的に反復練習を取り入れる。 ☆友達と考えを説明し合う活動を通じて、多様な解き方や立式の根拠を共有し、思考力や表現力を高めていく。 ☆問題場面を図や数直線に表すなど、答えだけでなく『なぜそう考えたか』を説明し合い、誤答も比較材料として活用する。
理科	○実験・観察等の学習には興味をもって取り組むことができる。 ○実験・観察した結果をもとに、考察しようとする姿勢が多く見られる。 ○日常の経験から予想を立てたり、結果から分かることを考察したり、文章にまとめたりする力を高める必要がある。	☆予想→実験→結果→考察→新たな疑問の流れを重視し、次の探究につなげる。 ☆視覚的な教材も利用し、さらに児童がイメージをもてるような指導をしていく。 ☆班活動を基本とし、意見交換しやすい環境を整えることで、多様な意見に触れることと、自信をもって意見を発表することができるように指導する。 ☆ねらいに関する学習用語を確認し、自分の言葉でまとめられるように指導していく。
音楽	○演奏技術には、個人差が見られる。 ○表現力の高い児童が何人もいる学年だが、生き生きとした表現にやや抵抗のある児童もでてきている。 ○可能な限りより多くの人たちに自分たちの音楽を聴いてもらう場を設定し、表現力の向上を目指している。	☆一人一台端末の手本動画を活用したり、楽譜の難易度を複数準備したりし、個人差に対応していく。 ☆褒め合う場面を増やし、安心して表現できる雰囲気をつくる。 ☆互いの演奏を聴き合い、良さや改善点を共有できるようにする。また、発表の場を設けることにより、音楽の楽しさや達成感を味わわせていく。
図工	○全体指導の理解に個人差があり、学習に必要な内容を理解できるよう、配慮が必要である。 ○自分の表したいことを見つけることや、どのように表すかについて考える力を伸ばすことを目指している。	☆板書、書画カメラ、一人一台端末などを活用し、視覚的に理解したり、後から確認したりできるよう配慮する。個別に声をかけ、支援する。 ☆試しながらつくることのできる題材や繰り返しやってみることのできる題材を計画的に設定する。ワークシートや一人一台端末などを活用し、自分の思いや考えを確認したり深めたりできるようにする。
家庭	○意欲や活動の進め方に個人差があり、グループでの学習では活動量の差ができてしまうことがある。 ○学習した内容を自分の生活に取り入れ、工夫して生活しようとする意欲に個人差が見られる。	☆グループ活動に際して、話し合いをもとに個々の目標を立てさせ、また互いに評価し合えるようにする。 ☆友達同士で工夫した点や成果、課題を交流する場を設けることで、多様な生活の工夫に気付き、自分の生活改善への意欲や興味を高める。 ☆家庭で実践した内容を交流し、生活改善につながる工夫を共有する。
体育	○自分に合った課題をもって学習に取り組んだり、動きのコツを伝え合ったりして改善しようとすることに個人差が見られる。 ○みんなが楽しく運動に取り組むためのルールや作戦の工夫についての話し合いに積極的に参加している。	☆運動の特性やポイントの具体的な視点を提示し、自分に合った課題を選択できるようにして、課題をもって活動に取り組めるようにする。 ☆一人一台端末を活用して、自分の動きを客観的に振り返り、改善点を明確にする。 ☆クラスの実態に合わせてルールや作戦のモデルを提示し、児童がルールや作戦を工夫できるようにする。
道徳	○自分の考えをもつことはできるが、それを伝え合う力には個人差が見られる。 ○議論しながら多面的に考えられる力を高める必要性がある。	☆座席の配置やグループなどで対話の形態を工夫し、対話しやすい環境を作る。 ☆価値観の違いを認め合い、自分の考えを更新する対話を大切にする。
外国語	○学習に主体的に取り組んだり、質問に対して、すぐに答えたり、ジェスチャーや問いかけをしたりしてコミュニケーションを楽しめたりする児童が多い。 ○全体的にリスニングはよくできているが、既習事項を用いて、相手を意識して、自分の思いを伝えていくことへの個人差が大きい。	☆様々な活動から無理なく参加できる状況を見極める。単元最後の活動のゴールを示し見通しをもたせたり、話したくなるような状況を設定したりする。 ☆学習端末を活用し、自分のことを表現しやすくできるようにする。また発表のイメージをもたせるために、ALTの見本動画をいつでも児童の一人一台端末で見られるようにしておき、発音の確認やふるまいなど自分のペースで確認できるようにする。 ☆実際のコミュニケーション場面を設定し、『伝わった喜び』を実感できる活動を充実させる。